

## 第2回 山形県地域協調型洋上風力発電研究・検討会議

日時：平成31年2月18日（月）13:30～15:45

場所：ホテルリッチ&ガーデン酒田

（山形県酒田市若竹町1丁目1-1）

### ○内容

- (1) 開 会
- (2) 主催者挨拶
- (3) 再エネ海域利用法について
- (4) 酒田港中長期構想（素案）について
- (5) 講 演

「洋上風力発電と漁業協調・地域振興について」

一般社団法人 海洋産業研究会

主幹研究員 研究部長補佐 塩原 泰 氏

- (6) 遊佐沿岸域検討部会 結果報告
- (7) 意見交換
- (8) その他
- (9) 閉会

#### 【配付資料】

- 【資料1】 再エネ海域利用法について
- 【資料2】 酒田港中長期構想（素案）
- 【資料3】 洋上風力発電と漁業協調・地域振興について
- 【資料4】 意見と対応の方向性
- 【資料5】 景観、漁業、鳥類調査結果概要
- 【資料6】 洋上風力発電研究・検討の今後の進め方

## 1. 開会

## 2. 主催者挨拶

太田部長（山形県環境エネルギー部）より挨拶。

## 3. 再エネ海域利用法について

内閣府総合海洋政策推進事務局より資料1に基づき説明があった。

## 4. 酒田港中長期構想（素案）について

山形県県土整備部空港港湾課より資料2に基づき説明があった。

## 5. 講演

一般社団法人海洋産業研究会 主幹研究員研究部長補佐 塩原泰氏より「洋上風力発電と漁業協調・地域振興について」の講演があった。

## 6. 遊佐沿岸域検討部会 結果報告

遊佐沿岸域検討部会 三木部会長より、資料4～資料6に基づき、遊佐沿岸部会における議論の経過と結果について報告を行った。

（事務局において景観、漁業、鳥類調査結果の概要説明等を補足）

## 7. 意見交換

畠中委員（遊佐町地域生活課）

遊佐町のエネルギー基本計画では、「町民、事業者と町との協働によるエネルギーの導入、エネルギー利用による地域の活性化、災害に強いまちづくりの構築、省エネルギーの推進」をうたっている。洋上風力事業の実施にあたっては、まずは地域の合意形成を図ることが重要である。あわせて、地域振興、産業振興につながるような取組みとして欲しい。また、各地区で事業説明を行ったが、町民への浸透はまだ十分ではないため、今後とも町民や漁業関係者の理解を図る取組みが必要ではないかと考えている。

弦巻委員（山形県商工会議所連合会）

酒田北港周辺の利活用促進のためPRを行っている中で、（風力やバイオマスなど）さまざまな電源がこれだけ集積している場所はなかなかないのではないかと感想があった。将来を考え、エネルギー事情を子どもにも理解してもらうため修学旅行の誘致につながり、クルーズ船の来航にきちんと対応できるような施設整備の要望活動などを行っている。

洋上風力発電に関しては、観光や産業振興、地域振興に役立つものであることか

らぜひ進めてもらいたい。ただ遊佐町はジオパーク、鳥海山があるので、これらの景観に留意した風車の配置を含めて計画を進めて欲しい。

玉石委員（国土交通省酒田港湾事務所）

当事務所は、県の港湾事務所とともに酒田港の利用促進を行っており、洋上風力の資材の搬入搬出港として酒田港を利用してもらえるのはありがたい。一方で、再エネ海域利用法では国による調査を行うこととされているが、当事務所が当該調査の実施機関となる可能性がある。東北においては、秋田県などで先行事例があるので、当事務所でも勉強を進めていきたい。

本間委員（山形県漁業協同組合）

洋上風力発電事業による漁業へのメリット・デメリットをしっかりと漁業者に伝え、漁業者の理解を得られるようにして欲しい。そうなれば組合としても前向きに進めていきたい。仮に法定協議会が設置されることとなれば、海域の先行利用者として参加し、議論していきたい。

三浦委員（山形県環境審議会）

巨額のプロジェクトとなることが予想される中で、地域が誇りを持てる事業とするために、事業による地域還元や環境配慮をどこまでできるか。それらは金銭面、経済面で評価されることになる。

公募による事業者選定の中で、地域への還元や地域の参加をどのように評価するか。事業体に地元資本がどの程度入るかというような経済的なフレームづくりのイメージを政府としてはどのように考えているか。

中西オブザーバー（内閣府総合海洋政策推進事務局）

公募のあり方については、地域の事情も踏まえ、地元も納得できる形はどういったものか、協議会の中でしっかり話し合いを行うことが重要。

政府の洋上風力促進に係る合同会議でも、留意点として「地域との共生、地域経済への波及」についても考える必要がある、との意見をいただいている。

築川委員（日本野鳥の会山形県支部）

鳥類に係る調査方法に、「一部補足的に関係機関等へのヒアリングを行った」と書いてあるが、どの機関にヒアリングを行ったか。地元の研究者にも確認を取ってほしい。

本橋委員（鶴岡工業高等専門学校）

風車の建設における港湾の利用にあたっては岸壁の強化が必要になると思われるが、秋田県では風力発電の大規模な導入に向けて継続して港湾を使用する計画があるようだ。山形県で導入する場合、県内の岸壁を強化するか、秋田県のものを使用するかについて、早い段階から検討したほうがよい。

山家委員（県エネルギー政策総合アドバイザー）

産業界において、温室効果ガスの対策やエネルギーコストの観点から再生可能エ

エネルギーの必要性に対する認識が強くなっている中で、洋上風力発電は再生可能エネルギーのエースとして期待が大きくなっている。山形県では 2012 年 3 月に国の政策を先取りする形でエネルギー戦略を策定しており、洋上風力でもできれば先陣を切っていきたい。今年度は遊佐部会でしっかり議論がなされ、来年度に向けて着実なステップを踏んでいると認識している。

先ほど三浦委員は重要な指摘をしていて、洋上風力発電を行う事業者が地域とどう向き合おうとしているか、遊佐あるいは庄内の沖合をどう見ているのかは非常に重要なこと。やはり事業者と地元の情報交換を行って、その中で地域振興の具体的な議論を行う段階になってきているのではないかと。来年度から再エネ海域利用法に基づく促進区域の第 1 次指定が出てくることになるので、議論の深化により地元の理解を得ていくこととともに、スピードも考えて全国の中で遅れないようにすることも大事。

吉村座長（東北公益文科大学）

各委員からそれぞれの立場でご意見をいただいたが、これらも踏まえながら、来年度も引き続き本研究検討会議において議論を深めるとともに、再エネ海域利用法に基づく法定協議会の設置を目指して準備を進めていくこととしてよろしいか。

（異議なし）

太田委員（山形県環境エネルギー部）

県としては、再エネ海域利用法の施行に向けた情報の収集に努めながら本県の検討に反映していくことと併せ、政府に対しても本県の検討状況について情報提供を行っていく。洋上風力発電が地域協調型の事業となるように漁業者や地域の方々と丁寧な議論を積み重ね、法定協議会という新たなステージへの昇華を目指していきたい。

吉村座長（東北公益文科大学）

県におかれては、引き続き関係者と連携し、洋上風力発電への理解促進と課題解決に向けた取組を進めるよう期待する。

## 8. その他

なし

## 9. 閉会

〔了〕